圀申家通信

発行
田中家石材
彦根市高宮町108-1
Tel. 0749-24-2789
VOL. 3

『暑さ寒さも彼岸まで』

お彼岸とは

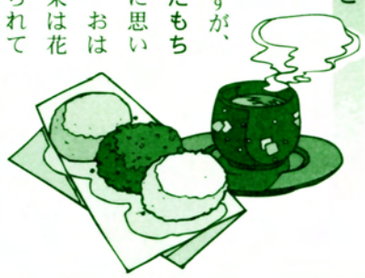
お彼岸とは西にある極楽浄土のことを指し、お彼岸という行事は、インドにも中国にもない日本だけの行事です。

昔から、**『暑さ寒さも彼岸まで』**の言葉通り、雪の痕跡も消えて春も盛りを迎える春分の日、また夏のぎらぎらした太陽もやすらぎ秋の恵みを頂く秋分の日、この日を中日に前後合わせて7日間、お寺はお墓参りでにぎわい、彼岸の法要が営われます。どうしてお彼岸をこの時期にと言いますと、**極楽浄土は、はるか西のかなたにあり春分の日・秋分の日の太陽が真西に入るのと結びつきがある**からです。

真東から登った太陽が真西に沈むところを極楽浄土とおもい、喜びのこころを起こしてその浄土に生まれることを願うのです。彼岸という言葉は、パラミータというインドの古い言葉の翻訳です。正確には、**到彼岸(とうひがん)**といい、彼岸に到るという意味です。現在私たちが住んでる世界を**此岸(しがん)**といい、常に迷いや苦しみに満ちた世界であります。これに対して、彼岸はここからの悟りの世界、涅槃の世界なのです。従いまして、お彼岸に法要を行うのは彼岸の世界へいくための行事です。

ぼたもちとおはぎ

お彼岸といえば、ご先祖様の供養とお墓参りを連想しますが、なんといってもぼたもちやおはぎを真っ先に思い出してしまいます。おはぎやぼたもちの由来は花にちなんで名づけられております。**春はぼたんの花が咲くことからぼたもち**といい、**秋は萩の花が咲くことからおはぎ**と言われております。おばあちゃんから受け継いだ家庭の味が味わえて最高のごちそうでもあります。



飲水思源

中国に**『飲水思源』**ということわざがあります。水を飲む者は、その源(苦労)を知れという意味です。水を飲もうところで、自分の力だけで水を飲もうとすれば、井戸を掘るなど大変な苦労をともないます。

つまり、水一つ取っても、その為に苦労した方々がたくさんいるということです。

「振り向けば、御恩を受けし人ばかり」といいますが、なかでも私達の為に特に苦労なさった方々が、ご先祖様ではないでしょうか。**皆様、お彼岸、お墓参りの時期がやって参りました。**

【なぜ「山の神」が女房の代名詞になったのか?】

山の神は大山積神(おおやまづみのかみ)あるいは大山昨神(おおやまくいのかみ)といわれる男の神である。もちろん、インドでも山神は男神である。

大山積神には二人の娘がある。姉は岩長姫(いわながひめ)といい、オカメのモデルであり、妹は木花咲耶姫(このはなさくやひめ)といって美人の代表とされている。

民間でいう山の神とは、姉の岩長姫(オカメ)のことのようだ。

さてオカメは「お亀・阿亀」などと記され醜女(しこめ)のことを指し、別名を「お多福」という。頬がふくらみ鼻が低く、垂れ目の女といえば、多情で出しゃばりで、おしゃべりの女のイメージがあり、趣味も行儀も悪いというように描かれている。

つまり、結婚前のしおらしさはなく、顔の形も変形し、体形も肥満して遠慮のない女房を、亭主たちは、"他人に見せるのも恥ずかしいオカメ女房"と思うようになる。

そのうえ、火山が噴火したようにわめき散らす姿には、ほとほと手を焼いている亭主が多い。

「もうどうでもいい、好きなようにしておくれ。子供のめんどうさえ見てくれたら、あとは、何もいいません」

といって、女房につけた畏称が、山の神という暗号卑称である。

それでも**「オカメ=お多福」**には愛らしさがある。愛しているのだが、他人の前では謙遜して、男同士の間では「山の神」というのだろうか。

【「早起きは三文の得」の"三文"とは?】

三文というのは、江戸時代の貨幣単位からくる言葉である。

農家の人はこういった。

「早朝に起き出して、山田への道を歩いていると、古い草履(ぞうり)や縄切れが落ちている。これを自分の田に入れたら肥料になる。また、木枝や木切れが落ちていれば、山田の小屋で湯を沸かすかまどの燃料になる」

なるほど三文の得というわけである。

またある人はいう。

「まだ人が寝しずまっている早朝に、牛に飼葉(かいば)を与えた後に、草履の一足ぐらいは編めるはず。寒い冬なら暖かい草履で出かけられることができるではないか」と。

これも三文の得である。

こういう人もいる。

「人より一時間早く起きて、かまどの火をたきつけて、井戸水をくんで、ご飯を仕かける。そして、かまどの前で一頁でも書物を読めば、女でも知識がついて賢くなれる」と。

これもまた三文の得だ。

これらはわずかな利得ではあるが、**塵(ちり)も積もれば山となるの理**を説いたものである。

季の詩

「幸せ」

入れ歯がないないと
おばあちゃんが言った
みんなで捜しても
見つからなかった
そのうち
にこにこはめていたのに
自分で気づいた
幸せがないないと
言う人も
捜し回ったら
そのうち
自分の中に
少しでもあったと
気づくだろうか

産経新聞より

創業明治四十一年
株式会社 田中家石材
(お墓)(墓地)等、石に関するご相談は
0120-68-1082
木曜日定休
全優石 全国優良石材店

■会社概要
●許可登録/滋賀県知事許可 第〇五一二七四号
●営業品目/寺院関連製品(各宗派吉相墓・記念碑等)
社寺関連製品(鳥居・記念碑・狛犬・灯籠・玉垣等)
環境石材製品・モニュメント・公園石施設・美術工芸品等
化石・鉱物・宝石・岩石・珍石等
●技術資格/厚生労働大臣認定 石積一級技能士
厚生労働大臣認定 石貼一級技能士
厚生労働大臣認定 石材加工一級技能士
◆松下電工労働組合加盟店 ◆ブリヂストン生協加盟店
◆財務省印刷局彦根朝陽会加盟店

高級墓石、常時百基を大切に「屋内展示」致しております。

田中家石材 創業九十年